

パンデミックの予防、備え及び対応（PPR）に関するWHOの新たな法的文書作成のための 第5回政府間交渉会議（INB5）結果概要（4月3日～6日 於：ジュネーブ）

※INB：Intergovernmental negotiating body

令和5年4月
外務省国際保健戦略官室

1. 会議の概要

- 共同議長：蘭、南ア、副議長：日本、タイ、エジプト、ブラジル。一部公開セッション。
- WHO加盟国は、起草グループ会合において、引き続き、パンデミックへの対応に関する新たな法的文書（WHOCA+）のゼロドラフトに基づき交渉した。
- 今回の交渉では、特にサプライチェーン及びロジスティクス網、病原体情報へのアクセス及び（それら情報のアクセスから得られる）利益配分システム、技術へのアクセスや技術の移転に関する論点について、国内でさらに精査が必要といった意見を含め、各国から様々な意見が示された。
- 今後共同議長他が書面コメントをとりまとめ、次回の6月のINB5再開会合で引き続き議論される予定。

2. 日本政府の主な立場

- 我が国は、パンデミックの予防、備え、対応の強化のため、国際的な規範や規制を強化することが重要との立場。G7として、本件交渉に建設的に貢献し、本年のWHO総会への報告や来年5月を目途とされる交渉妥結に向けてモメンタムを維持・強化することを重視する。
- 国際保健規則（IHR）の改正とWHOCA+の作成は、相互補完的なプロセスであるべき。

3. 今後の予定

2023年	5月21-30日	第76回WHO総会（進捗状況の報告）
	6月～翌年5月まで	INBおよび起草グループ会合を随時開催
2024年	5月	第77回WHO総会（成果物の提出）